

サーバント・アーツを目指して

春名 康範

奨励者紹介〔はるな・やすのり〕

日本キリスト教団天満教会牧師

さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。夕食のときであった。既に悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた。イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまどわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまどった手ぬぐいでふき始められた。シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」と言った。イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。そこでシモン・ペトロが言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も。」イエスは言われた。「既に体を洗った者は、全身清いのみならず、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」イエスは、御自分を裏切ろうとしている者がだれであるかを知っておられた。それで、「皆が清いわけではない」と言われたのである。

さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び席に着いて言われた。「わたしがあなたがたにしたことが分かるか。あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。

(ヨハネによる福音書 13章1—14節)

名前のルーツは面白い

NHKで名前のルーツを調べるという番組があります。一番多い名前は、「佐藤」さん、2番目が「鈴木」さんだそうです。私の名前「春名」は、1826番目に多い名前だそうです。世の中には「御手洗」と書いて「みたらい」と読むお名前もあります。なぜ「トイレ」という名前になったのだろうか、子どもの時などからかわれたりしなかったらどうかと考えたのは私の無学のせいで、「御手洗(みたらい)」は大変高貴な名前だそうです。

全国に「御手洗(みたらい)」という地名があって、神事の前に参拝者が手を洗ったことに由来しているそうです。京都の下鴨神社にも「御手洗川」があって「みたらし川」と読みます。その川にちなんで作られたのが「みたらし団子」です。醤油味のトロっとしたたれがかけられていて、皆さんも好きでしょ。でも、ひら仮名で「みたらしだんご」と書かれているから、抵抗なく食べていますが、漢字で書かれていたらどうで

しょうか。

他方、東京の大田区には「洗足池」というのがあります。なんでも、日蓮さんが足を洗った池だと伝えられています。隣接する目黒区には「洗足駅」があります。今は川崎に移転した洗足学園の発祥の地で、この学校は前田若尾というクリスチャンがイエス様の「互いに足を洗い合え」という教えから学校の名前を付けたので、キリスト教と関係があります。

手洗いでなく足洗いをしなさいと

本日の聖書にイエス様が弟子たちの足を洗って、「互いに足を洗い合いなさい」と教えられたことが書かれています。「手を洗う」行為は、「汚れを清める」という意味があり、聖書にはローマ帝国の総督ピラトが群衆の圧力に押されて、イエス様を十字架に架けるに当たり、手を洗って、この裁判と自分は関係が無いと人々に言ったことがマタイによる福音書27章24節に記されていますから、「手を洗う」は、関係を断つことを意味します。他方、「足を洗う」は日本では組織から脱会することを意味しますが、イエス様にとっては「仕える」ことを意味すると記されています。

イエス様の時代は、道路も舗装してなくて、履物もサンダルですから、人の家や宿屋に着くと、奴隷が客のサンダルを脱がせ、水で足を洗って迎え入れるのが常でした。日本でも昔は草履を履いて生活していましたから宿屋に着くと宿の人がタライに水を入れて持ってきて、客の足を洗って迎えました。埃だらけでそのまま上がられると畳が汚れるからです。

イエス様が弟子たちの足を洗おうとすると、弟子たちが戸惑いました。ペトロが恐縮して「わたしの足など決して洗わないでください」と辞退すると、「もしあなたの足を洗わなければ、あなたとわたしは何のかわりもなくなる」と言われました。するとペトロは「足だけでなく手も頭も」と言いました。しかし、イエス様は「足だけで良いのだ」と言われて弟子たちの足を洗い、「このように互いに仕え合いなさい」と教えられました。

同志社の教育の目的は何だろう

このところ、日本大学と関西学院大学のアメリカンフットボールの試合で、日大の選手がプレーを終えて2秒も経過した関学のQBに後ろからタックルして怪我をさせた事件がニュースになっています。昨日は、アンフェアなタックルをした日大の選手が会見を開き謝罪したことが報じられました。監督とコーチから命じられて反則行為をしてしまったと涙をこらえて話していました。勇気ある行動です。他方、監督とコーチは言葉を濁し、責任逃れをしています。国政レベルと同じことがまかり通っています。大学の宣伝に役立つと思って勝つことばかりに価値を置いた大人の倫理観が大学の評価を落とし、学生の心に傷を負わせた出来事であったように思います。これは他人ごとではなく、自分たちはどうなのだと問われている事件でもあります。

対戦相手の関西学院は校歌に“Mastery for Service”という言葉を入れて、学院の教育の目的は「仕える人になる訓練」であると掲げています。これは、イエス様の「仕える人になりなさい」と言われたみ言葉に立脚しています。では、われらの同志社大学の教育目標は何か。今出川キャンパスの明德館の壁にヨハネによる福音書8章32節の言葉がラテン語で“VERITAS LIBERABIT VOS”（真理は汝に自

由を与える)と書かれています。中世では、リベラルであるということは、迷信や因習の奴隷状態から解放されて、自由な発想で生きることを目指すという意味がありました。それで、大学では文法、倫理、修辞学、算術、幾何学、音楽、天文学の7教科を教えました。現代ではリベラル・アーツは「一般教養」を意味します。同志社は幅広い教養を身に付けて、自由な生き方をする人を世に送り出したいということでしょうか。

イエス様の願われるリベラル・アーツ

しかし、新約聖書はギリシャ語で書かれていますのでギリシャ語の「真理」アレーセイアという言葉の概念も参考にしなければなりません。アレーセイアは「明らかになった真実」を意味して、誰が同じ条件で実験しても同じ結果が出ることを意味します。理系の皆さんには、馴染みの概念です。しかし、イエス・キリストはギリシャ語を話さないでヘブライ語またはアラム語でヘブライ語の概念で話されましたので、ヘブライ語の「真理」の概念を確認しなければなりません。ヘブライ語ではエメトと言います。英語のアルファベットに当てはめると、AとMとZに当たるアーレフ、メム、タウの3つのスペルで成り立っています。これは初めと中間と終わりを意味していて、過去と現在と未来を貫いて支配される神様を言い表しています。ギリシャ語の「真理」との違いを強調すると「まだ明らかになっていない事実」こそ真理であり、神様であり、神様の導かれる未来であるという考えです。そして、イエス様は「わたしは道であり、真理であり、命である」(ヨハネによる福音書14章6節)と言われ、自分こそ真理であると言われるのです。

そのイエス様が、互いに足を洗い合いなさいと言われます。自分の足を洗うのではなく、相手の足を洗いなさいと言われます。自分の足は汚く感じないですが、人の足は汚く感じます。それに人の足を洗う姿勢になることは、とても無防備で、いつ蹴っ飛ばされるかもしれないという危険に身をさらすことになります。人の足を洗うことは、人の失敗の尻ぬぐいをすることを意味します。こんな割の合わないことはない。しかし、イエス様は、それを求められる。

私たちは、自分もっている固定観念にとらわれることなく、自由になり、すべての抑圧から解放されるためだけではなく、人が自由になることも目的として学問をする、そう考えて、人の足を洗えと言われるのです。どの学部で学んでも仕事に就いて働くということは、人に仕えて、人が楽になるように「しもべ」のように頑張るということです。「仕事」とは「仕える事」と書き、「働く」は「はたの人が楽」という意味です。

同志社のリベラル・アーツは自分をリベラルにするために学ぶだけではなく、人をリベラルにするために学ぶのです。どの分野の学問を学ぶのも、どんな仕事に就くのも、目的ははっきりとしています。苦しんでいる人を助けて解放するためです。大学には入ったものの、授業は期待していたような面白いものではないし、どうしようと思っている人は、未来をも支配しておられる神様が、自分を導いてこの同志社に入学させ、人助けのために今はこれを学ばせ、訓練しておられるのだと考えてみてください。この学びが、いつか必ず役に立つ時が来るのだと考えてください。自分にとって人の洗足とは、どんなことをすることになるのだろうかと思いにしてください。偉い人になって、将来楽をしようとするのではなく、仕える人になるために力を身につけよう、リベラル・アーツではなく、むしろ、サーバント・アーツを身につけようと考えたら、今、難しいことを学んでいることの意味も分かってきます。これがいつか役に立つ、まだ見ぬ誰かの難しい問題を解決するために役に立つ時が来る。世界が直面する困難な問題を解決するために過去から未

来に向けて歴史を支配しておられる神様が、今はこれを学ばせようと導いておられるのだと考えてみましょう。「つまらない」と思う気持ちから解放されて、もう少しやってみようと思う気持ちが湧いてきます。これこそ同志社のリベラル・アーツです。

2018年5月23日 京田辺水曜チャペル・アワー「奨励」記録